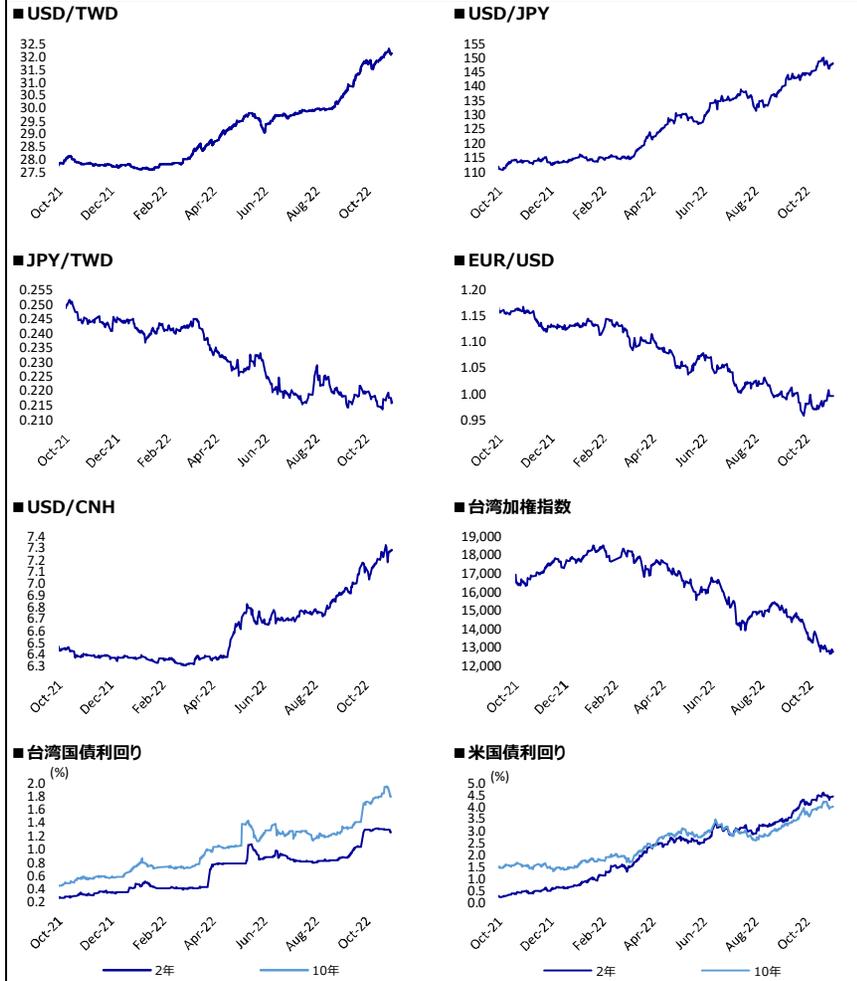


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは下落。週初10/24は32.140でオープン後、上値の重い台湾株と輸入企業のドル買いを背景に32.26付近まで上昇。10/25は台湾株が下落したことに加え、人民元が15年ぶりの安値を更新したことから一時32.345まで上昇。10/26は前日の米住宅関連指標等から米金利が低下し、ドル全面安となる中、台湾ドルは買い戻され、32.21付近まで下落。10/27は前日のカナダ中銀が市場予想を下回る利上げ幅を決定したことを受けて、米国の利上げペースも減速するとの見方が強まり、台湾株が反発すると台湾ドル買いが優勢に。ドル/台湾ドルが下落すると様子見していた輸出企業のドル売りも入り、一時32.020まで下落。10/28は翌週にFOMCを控えてか、取引量が減少し、実需での売り買いから方向感なくレンジで推移。最終的に先週比0.1%ドル安台湾ドル高の32.148で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は438.6億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は下落。週初10/24は147.65でオープン後、前週末の為替介入に対して反発し、149.70まで上昇したが、再度円買い介入が噂されると、145円台前半まで下落する荒い値動きに。その後は149円台に戻したが、介入への警戒感や米長期金利が低下したことから、上値は重く推移した。10/25は米住宅関連指標の悪化や米10月消費者信頼感指数が予想を下回ったことから、米金利の低下と共に147円台前半まで下落。10/26はカナダ中銀の利上げペースの減速を受けて米金利が低下すると146円台前半まで下落。10/27は前日の流れを引き継ぎ、米国の利上げペースが減速するとの見方が強まり、一時145.11まで下落。しかし、一巡後は146円後半まで戻したが、ECB理事会後のラガルドECB総裁が会見で正常化への姿勢を変えなかったことから景気後退懸念が高まり、米金利が低下すると146円ちょうど付近で推移。10/28は日銀の金融政策決定会合の結果が予想通り据え置きとなったが、上下に荒い動きとなった。会合後の黒田日銀総裁の会見を受けてドル円はじりじりと147円台後半まで上昇。その後は米経済指標が相次いで発表されると強弱混合の中、147円半ばで揉み合う展開に。最終的に先週比0.2%ドル安円高の147.44で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：32.050-32.500
今週はFOMCを控えており、週前半は様子見相場となるであろう。先週は利上げペースが減速するとの見方が出たものの、FOMCの内容次第ではドル全面高となるため、台湾ドル安の流れに注意したい。

■ USD/JPY 予想レンジ：145.00-152.00
今週はFOMCを控えている。景気減速への警戒よりインフレ抑制を第一とのスタンスを明確にした場合、ドル高への流れに注意したい。一方、上値では円買い介入の可能性もあり、荒い値動きとなることにも警戒したい。なお、今週は月初でもあり、米雇用統計等重要指標の公表も控えており、データの内容にも注視したい。

今週の予定

10/31 (MON)	ユーロ圏10月消費者物価指数
11/1 (TUE)	台湾10月製造業PMI、米10月ISM製造業景気指数
11/2 (WED)	米10月ADP雇用統計、米FOMC
11/3 (THU)	米10月ISM非製造業景気指数、英BOE
11/4 (FRI)	台湾10月外貨準備、米10月雇用統計

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。